

# Woman's message

VOL.20

「お互いに押しつけ合っているんじゃないか?」



「私の役割は、話をじっくり聞いて本当にどうしたいのかを一緒に見つけてあげること。人のせいにして、すべて自分で決めて選んできたことなのだから」と話す今枝さん

人生を重ねてきたからこそ、分かることがある。  
辛い経験を経たからこそ、人にやさしくなれる。  
人生の荒波を越えてなお、輝く女性たちが  
元氣と勇氣あふれる言葉を届けます。

## 思いをぶつける ことよりも、 思いを受け止めにいくことを



夫婦問題・離婚問題相談室 リボーン  
今枝朱美さん

### 「つらい」を押しつけ合い 次第にすれ違っていく

今枝さんのもとには、夫婦問題に悩む数多くの人が足を運んできます。「夫のためにごはんを作ったのに、「やりたくない」ともやらずに、家事や洗濯をやってきた」。そんな女性に、今枝さんはよくこんなアドバイスをします。「例えば、茶碗を洗うのが嫌だったら、そのまま洗わないで放っておいたら?とアドバイスするんです。結婚したのも、子どもを産んだのも、子どもを育て上げた今枝さん。3人の子どもを育て上げた今枝さん。「私のこれまでの人生の失敗や経験がお役に立てばと思っています」

### 考え方は違うけれど、 認め合えるのが夫婦

最近、男性からの相談も増えています。ある男性はこう悩みを打ち明けたそうです。「妻にプレゼントもしてきて、一緒に食事も満を暮らせている。何が気に入らないのか?」「自分の気持ちを押しつけて、自分は正しいと思ってる。これは男性も女性も同じです。自分の当たり前は、相手にとって当たり前ではない。夫婦は同じ考えになる必要はありません。違うのに、ちゃんと認め合うことができ、認め合うために正面から向き合っていくことができる。それが夫婦だと思えます」

知らぬ間に身にまとうてい、殻を破って、私の思いをぶつけるのではなく、お互いに相手の思いを受け止めにいく。「夫婦関係を築き直すためには、そうしたらシブシブなことを、ちゃんと積み重ねていくことが大切だと思います」

だのも、すべては自分で決めたこと。それが次第にお互いのせいにするようになり、少しずつ夫婦はすれ違っていき、「私も離婚経験者です。結婚当時は、主婦である自分を夫が認めてくれないつらさを抱えながら生活していました。夫は夫で、自分が必死に働いて家族を養っているんだと思っていた。お互いに「つらい、つらい」を押しつけ合っただけで、相手の気持ちを分かろうとはしていませんでした」

### 出演者を大募集!

あなたの周りにいる、ステキな女性を紹介してください。「Woman's message」では、読者を勇気づけてくれる人を大募集。自薦・他薦は問いません。

自薦の場合は、〒住所、氏名、年齢、電話番号、職業、経歴、応募の動機を記入、他薦の場合は、ご自身の連絡先と推薦する人の氏名、年齢、職業、推薦する理由を記入のうえ、ハガキまたはFAXで下記まで

〒460-8475(住所不要)  
「allen Woman's message」係  
FAX=052(269)9560



2年半前に開設した「リボーン」には男女問わず、多くの人が相談に訪れています。「間違っていたと気づいたらやり直せばいい!」



パソコンや電話に相談の連絡が入りますが、カウンセリングは対面のみ。「後悔しないよう、これからの方向性を一緒に考えていくことを心掛けています」



「実践離婚カウンセラー養成スクール」の修了証書。カウンセリングをしながら、日々さまざまな視点で勉強を続けています



お孫さんと。3人の子どもを育て上げた今枝さん。「私のこれまでの人生の失敗や経験がお役に立てばと思っています」